

## 第4回紫電改展示館整備検討委員会の開催結果

1 委員会の名称 紫電改展示館整備検討委員会

2 開催日時 令和6年3月26日（火曜日）13時30分から15時まで

3 開催場所 いよてつ会館4階会議室

4 出席者 委員6名、事務局6名、設計業者4名

5 審議事項（議事）

- (1) 展示計画について
- (2) 今後の予定について
- (3) 意見交換

6 審議の内容

議事（1）展示計画について

- 事務局から「現在の業務の状況」について説明した。
  - ・紫電改展示館のリニューアル事業について、建設資材の高騰などから建屋の建設費用が当初の計画から増加傾向となっている。
  - ・リニューアルに伴う実機の移設について専門業者へ確認した結果、実機の補強や移設のための架台製作が必要であることが判明した。
  - ・上記要因を受け、事業全体のコスト削減の検討に時間を要している。
- 遠藤克彦建築研究所から展示計画の案について概要を説明した。
  - ・今回は、前回（第3回）説明した展示方針を、より具体化した内容としている。
  - ・スロープの前半部分で来館者へ向けた問いかけを展示し、「平和」や「未来」という視点を持ちながら館内を回ってもらうための導入メッセージとする計画。
  - ・スロープの後半部分では、戦争体験者のリアルな言葉を展示することで、「平和」を考えるためのヒントとすることを考えている。
  - ・機体後方のスペースで、概要映像を流す計画としている。
  - ・実機エリアに面して、展示室と多目的室を設けている。展示室は保存の観点から実機エリアとの境界を壁面としているが、多目的室はガラス張りとすることで、実機と一体的な空間としている。
  - ・海側のガラスに面してメッセージカウンターを設置する。館内を一通り見た後、久良湾を眺めながら平和への思いをハガキに綴っていただくことを考えている。来館者が未来の自分や、大切な人に対してメッセージを残すことができるようになっていく。
  - ・2階に戻り、吹き抜けに面した手摺に、先ほど書いていただいたハガキを展示することを考えている。
  - ・展示室の大きな構成は、「機体としての紫電改」「引き揚げ時の様子」「関係する人々の思い」としている。
  - ・展示室に入った部分に導入として、年表や地図、写真を用いて、現在に至るまでの経緯を展示し、最初に全体像をつかむことで、各コーナーの理解促進を図ることとしている。
  - ・「機体としての紫電改」のエリアでは、壁面いっぱいに部品を展示し、紫電改の図面や解剖図等を用いて、概要や特徴、その開発経緯の展示を行う。部品と解剖図に番号を振ることで、部品の位置や、その役割をわかりやすく展示する。
  - ・2つ目のエリアは、紫電改の引き揚げを一つの出来事として、引き揚げ時の写真や引き揚げまでの経緯、エピソードなどを展示する計画。写真をプロジェクタ等でスライ

ド上映する計画としている。

- ・3つ目は紫電改にまつわる人々や、その思いについて展示を行う。「343 剣部隊について」、「未帰還だった6名の方について」、「地上からの思い（紫のマフラー）」、「引き継がれた思い・引き継ぐ思い」の4部構成とする予定。このエリアにはタッチモニターを用い、展示しきれない既存資料の展示についても対応する予定。
- ・この場所ならではの展示として、館内全体に仕掛けを計画している。来館者が平和について考えるきっかけを作ることが大切と考え、「問いかけ」の設置から始まり、「未来へのハガキ」として来館者の皆様へ平和への思いをハガキに綴っていただきたいと考えている。ハガキの宛先は、「未来の自分」「未来の社会」「大切な人」など自由に設定いただき、文字にすることで、自分なりの平和を考え、その大切さに気付いて頂けるのではないかと考えている。最後に、投函されたハガキを掲示することで、皆様の思いを蓄積することができればと考えている。
- ・展示されている機体が戦争を経験した実機であること、一度沈んだ機体が引き揚げられた久良湾の景色とともに展示されていることが、ここならではの考え、海側ガラス面に引き揚げ地点のグラフィックを展示し、来館者がポイントに立つと、風景と重なり合い、引き揚げられた場所がわかる仕掛けを計画している。これは建物の計画意図を可視化する仕組みでもあると考えている。

## 議事（2）今後の予定について

○事務局から今後の予定について以下のとおり説明した。

- ・コスト削減案の検討のため業務に遅れが生じており、設計業務を8月末まで延長する予定。
- ・第5回の委員会は6月に実施する予定。
- ・第5回では、コスト削減後の建物計画や展示計画の案を説明し、委員から意見を伺う予定。
- ・第6回目は、設計業務の進捗に合わせて実施する。

## 7 委員会での主な意見

- 歴史上の事実や戦争に関連する内容を、どこまで展示するかについては、様々な意見が出ている。歴史博物館のように広さが十分にあれば、情報をすべて広げて整理することは当然すべきと考えるが、決められた制限の中で対応する着眼点も、今回の施設の在り方としては優先すべき形かなと思う。
- 平和を考え、戦争を二度と繰り返させないというメッセージを投げかけていくということを最優先として、足し算ではなく引き算の形で、空間に残さなければいけない情報を残していく必要がある。
- これまでの展示館は、引き揚げられた実機そのものの展示がされているという印象であったが、今回の展示計画では、情報がきちんと整理されていて、物事がわかりやすくなり、心地よく感じられた。
- 展示を見る人それぞれに考えがあると思うが、「考えるきっかけ」という場所になっていると感じた。
- リニューアル後、パンフレット等を用いて「この施設の在り方」、どのような考えでリニューアルしたのかを綴ることも大事かもしれない。
- 今回の建物はメッセージ性が高いので、景観を感じながら実機がそこに存在することだけで、悪い意味ではなく、かなり心理が誘導されると思う。
- 子ども達にとっては、ある程度メッセージがないと伝わらない。事実を事実として、写真やパネルできちんと伝えるべき。
- 実際は運営者側の解説員が、どのように解説するかが大切ではないか。今は空間のリニューアルの議論をしているが、事務局には運営に関する検討をお願いしたい。
- 来館者の年齢層によっても、伝え方を変えなければいけない。それが空間だけでは対応できな

- い、運営に関わってくる部分であると感じる。
- 海側ガラス面のグラフィックなどは、想像すると非常に意味のあるデザインだと思う。
  - 展示室の広さは、どの程度人が入れるのか。じっくり見られる広さがあるのか。
    - 部品を展示する壁の前の立ち上がり部分から反対側の壁までが1800mm、畳一枚分くらいになっており、広いスペースとはいえないが、人が行き来でき、車いすが対面できるスペースにはなっている。
    - もう少し広げることはいかないか。この広さでは厳しいと感じる。  
見る空間は広い方がよいと感じる。知らない人が近くにいると、集中できないというのはある。
    - 現在の計画では、部品のタンクなど床に置くものを考慮して、通路の建ち上がり壁を計画しているため、これら部品の向きの変更または写真への変更などを検討し、調整したいと思う。
    - 車いすの方の膝から下600mmが入るだけのスペースだけでも確保できれば、見えやすさは改善できると思う。誰でも資料を見えやすくする設計を検討してもらいたい。
    - 検討する。
  - 館のコンセプトやメッセージ性の強さというのはあると思うが、そこには事実に基づいているということが重要。事実の流れの中でメッセージを感じてもらえるようなもの、直接的な、言葉というメッセージでは表現しないことが大切ではないかと思う。
  - 展示に関して、343航空隊の歴史や7/24の前後のこと、引き揚げのことを取り上げたのは有意義なことだとは思う。戦争の実感なども持ってもらうような展示にしてもらいたいと思う。
  - 実感を持ってもらうという意味で、亡くなった6名の方のご遺品やハガキを展示することで、実際にこの方々が生きていて、この戦争で亡くなったということを感じてもらいやすいと思う。展示には制約があるということで、一つはデジタル化することで、見てもらえるように工夫するなど、検討してもらいたいと思う。
  - 愛南町や愛媛県全体をフィールドとしたフィールドミュージアム構想などを検討してもらいたい。（戦争遺跡を紹介する案内板の設置や、ガイドマップの作成など）
  - 今は公園施設の展示館という範囲で空間の計画を作っているが、今、デジタル社会の中で博物館を情報で捉えた場合、実物の資料だけが情報ではなく、例えばデジタルサイトなどを作りフィールドミュージアム化をするという方法も考えられる。発信拠点として地域振興にもつながっていく可能性があり、箱物を作っただけでは広がっていかないのではないかという問題提起でもあると感じている。
  - 文化を求めて人々は観光にやってくるので、文化と観光は密接にかかわっている。今回の戦争というテーマはデリケートではあるが、ありのままを見ていただくのが良いのではないか。いろいろな場所をめぐるのもいいが、この展示館は拠点として、生で資料を見て空気感を感じることができる。それは代えがたいものであると思うので意味があると思う。
  - デジタル技術が進歩しているので、例えばホームページで資料を見ることができれば、間口が広がって、逆に見に行こうといった行動につながることも考えられる。
  - ガイドがあるのとないのでは全く違うので、ガイド育成などの部分も肉付けしてってもらいたい。オープン後の運営が大切だと思う。
  - 愛南町が地域振興としてこの施設を利用し、情報発信してもよいし、県だけでなく、地域の方々が自分達の大事な文化資源として活かして、育てていただけるようにすることも大切であると思う。

〔整備検討委員会事務局〕  
土木部道路都市局  
都市整備課公園緑地係  
電話 089-912-2749  
FAX 089-912-2744